

		A. 現状の問題点	B. 当団体が考える推奨レベル	C. 当団体が考える理想レベル
1	屋根形状	1、（屋根断熱時）屋根形状が寄棟・方形が採用されている （参考資料1） 2、軒の出がない	1、（屋根断熱時）屋根形状が切妻・片流れである 2、壁に雨水がかかからないように軒の出がある	1、物理的に雨水が排出できる構造となっている （シーリングに頼らない施工が行われている。）
2	小屋裏（天井断熱） 【2・3は、どちらかを選択】	1、住宅金融支援機構の小屋裏換気基準ギリギリを狙う	1、小屋裏換気基準をクリアしている 2、屋根や界壁毎に換気量を確認している	1、地域毎に換気量の補正を検討している 2、通気経路の欠損がないように経路を確保する （参考資料2）
3	小屋裏（屋根断熱） 【2・3は、どちらかを選択】	1、換気棟が設けられていない 2、屋根形状が寄棟・方形が採用されている （換気経路を確保されているものは、除く）	1、換気棟が中央に設置されている 2、垂木毎に換気経路を確保する措置が行われている （参考資料1）	1、棟長さ全長に換気棟が設置されている 2、通気経路の欠損がないように経路を確保している （参考資料1・2）
4	バルコニー	1、手摺天端に貫通穴を設けて、止水処理が考慮されていない 2、手摺壁通気層天端を閉塞している （参考資料3） 3、ルーフバルコニーの床下が、換気させていない	1、天端の貫通穴は、止水処理を行う 2、手摺壁通気層天端を閉塞していない （参考資料3） 3、ルーフバルコニー床下の換気をする （参考資料4）	1、できるだけ天端に貫通穴を設けない （参考資料3） 2、手摺壁通気層天端に専用の換気部材を設置する 3、ルーフバルコニー床下に計画的に換気経路を設け、換気する （参考資料4）
5	外壁	1、モルタル・レンガの直貼り施工 （湿気の排出が考慮されている製品は除く） 2、通気層は設けているが通気経路が確保されていない	1、通気構造となっているが、雨仕舞が考慮されていない	1、通気構造となっている外壁 2、吸気・排気部に通気部材が使用している
6	内部結露	1、結露計算による内部結露の検討が行われていない 2、工事中の雨がかりにより木材に水分が保持され、腐朽原因になっている 3、未乾燥材が使用されている	1、結露計算を行っている 2、工事中に雨水にかからないように、養生する 3、乾燥木材を使用している	1、工事中雨水にさらされても大丈夫な通気経路を確保している 2、棟および外壁長さ全長に換気・通気部材を設置している
7	防腐・防蟻	1、防腐・防蟻処置が行われていない 2、基礎外断熱 （耐久性に配慮した処置および地域性を考慮した場合は除く）	1、数年に1度の再処理が必要な防腐・防蟻措置が行われている 2、「K3以上の防腐・防蟻処理を行った土台」か「ヒノキ等の高耐久樹種の土台」のどちらかを使用されている	1、半永久的に使用できる防腐・防蟻措置が行われている
8	性能表示の劣化対策等級3	1、性能表示の劣化対策等級3の項目を実施していない	1、性能表示の劣化対策等級3の項目を実施している	1、性能表示の劣化対策等級3以上の対策を行っている
9	床断熱 【9・10は、どちらかを選択】	1、400mm以下の基礎高さ	1、400mm以上の基礎高さ 2、換気措置を設けられた床下	1、同左 2、同左 3、防湿措置が行われた床下
10	基礎断熱 【9・10は、どちらかを選択】	1、基礎外断熱 （耐久性に配慮した処置および地域性を考慮した場合は除く）	1、定期点検を行っている	1、同左